

岩手・宮城県際ネットワーク

－ 平成 29 年 8 月 1 日発行 － （担当公所：気仙沼地方振興事務所） （第 150 号）

●編集・発行 地域づくり団体ネットワーク岩手・宮城県際交流会事務局

岩手県	県南広域振興局経営企画部	0197-22-2812	http://www.pref.iwate.jp/index.rbz
岩手県	沿岸広域振興局経営企画部大船渡地域振興センター	0192-27-9911	http://www.pref.iwate.jp/index.rbz
宮城県	北部地方振興事務所栗原地域事務所商工・振興班	0228-22-2195	http://www.pref.miyagi.jp/nh-khsgsin/
宮城県	東部地方振興事務所登米地域事務所商工・振興班	0220-22-6123	http://www.pref.miyagi.jp/et-tmsgsin/
宮城県	気仙沼地方振興事務所 商工・振興班	0226-24-2593	http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ks-ti

圏域情報

◆◆◆◆ 宮城県気仙沼地方振興事務所 ◆◆◆◆

サンオーレそではま海水浴場が再開しました

東日本大震災により被災し、閉鎖されていた南三陸町志津川の海水浴場「サンオーレそではま」が、7月15日に再開しました。

サンオーレそではまは、1999年7月に完成した人工海水浴場です。サンオーレという名前は、砂浜の全長3（サン）0（オー）0（レ）に由来しています。穏やかな波と白く綺麗な砂浜で、年間約4万人以上の方々が訪れる夏の人気スポットでした。しかし、東日本大震災により砂の流出や地盤沈下など、壊滅的な被害を受けました。その後、防潮堤のかさ上げなど、復旧工事により、約7年ぶりに営業再開となりました。

営業再開当日は、晴天にもめぐまれ、子ども達は海に入ったり波打ち際で砂遊びをしたり、多くの親子連れで賑わいました。

3月の「南三陸さんさん商店街」、4月の「南三陸ハマレ歌津」に続いてまたひとつ、南三陸町の賑わいが復活しました。この夏はぜひ、南三陸町の「サンオーレそではま海水浴場」に遊びにきてください。



■日時（開設時間）

平成 29 年 7 月 15 日（土）から 8 月 20 日（日）まで [期間中の各日 9 時 30 分から 16 時まで]
※天候により遊泳禁止になる場合があります。海水浴場の開設状況は「南三陸町観光協会ホームページ」に毎日更新されています。

■場所

宮城県本吉郡南三陸町志津川字袖浜地内

■問い合わせ先

サンオーレそではま海水浴場 管理棟
電話：090-5831-9891
一般社団法人南三陸町観光協会
電話：0226-47-2550

「平泉世界遺産の日」シンポジウムが開催されました！

6月17日、「平泉世界遺産の日」シンポジウムが平泉町の中尊寺本堂で開催されました。

平泉の文化遺産が世界遺産に登録された6月29日の「平泉世界遺産の日」に合わせ、世界遺産平泉に込められた意味を考え、平泉の価値や理念について広く伝えるためのシンポジウムには、町内外から約100人が参加しました。

平和祈願法要が行われたのち、達増拓也岩手県知事、青木幸保平泉町長が挨拶。平泉が世界遺産に登録されて今年で6年を迎えるにあたり、改めて平泉の世界遺産の大切さや、文化遺産を核としたまちづくりへの意気込みを語りました。

シンポジウムでは、盛岡市出身で文藝春秋の元常務取締役で県人連合会長の鈴木文彦氏による「『ここに残る日々』～文学の効能～」と題した基調講演を行いました。作家井上ひさしさんの次女の綾さんが、父との手紙のやりとりを題材にした著書「井上ひさしから娘へ 57通の往復書簡」を取り上げ、編集者として様々な作家を担当した経験から「精神的に苦しみ、死を考えた時期もあった綾さんにとって、父の手紙や文章が支えになった。文学には人を助け、癒す力がある」と語りました。



引き続き行われたパネルディスカッションは、中尊寺仏教文化研究所長の佐々木邦世氏のコーディネートにより、「『ここに残る日々』～東北の山河～」というテーマに、鈴木文彦氏と一関市出身の作家・動物研究家の遠藤公男氏、多言語翻訳などを手掛けるザ・サードアイ・コーポレーション代表取締役の田中さか江氏、平泉町出身の英字紙編集・ニュース翻訳者の泉伸弘氏の4人により意見が交わされました。



【平泉イベント】

8月14日(月)午後3時30分から、平泉町の中尊寺白山神社能舞台上で「第40回記念・中尊寺^{たきぎのう}薪能」を開催します。野外能舞台の周囲にかがり火が燃え、幽玄の世界が展開されます。会費薪能奉賛券(チケット)発売中。

SS 12,000円 S 10,000円

A 9,000円 B 5,000円

学生 3,000円

(申込:中尊寺薪能の会 電話 0191-46-2110)

世界遺産平泉へ、どうぞお越してください。

■問い合わせ先

岩手県南広域振興局

経営企画部 観光商業・食産業課

電話: 0197-22-2843

「大船渡×東京 陸前高田×東京 花のみちプロジェクト」が実施されました！

6月6日（火）、11日（日）、15日（木）、
「大船渡×東京 陸前高田×東京 花のみち
プロジェクト」で花苗の植栽を行いました。

このプロジェクトは、東京都及び（公財）
東京都道路整備保全公社が共同で実施している被災地の復興と潤いのある道路空間の創出事業に賛同し、沿岸広域振興局土木部土木センター、気仙地区の活動団体、東京都及び（公財）東京都道路整備保全公社が連携し、被災地で育てた花苗の一部を東京都庁前の花壇やイベント等で展示する活動です。

震災から6年が経過し、今もなお仮設住宅での生活を余儀なくされている被災者の方々が多く存在する一方で、全国的には、震災関連の報道や被災地でのボランティアの数が減少傾向にあります。

そのような状況において、当該プロジェクトは、これまでの復興支援に対する感謝を伝えるとともに、震災の記憶を風化させないために、被災地の現状を情報発信し、復興への理解を得ることを目的に実施されています。

今回参加した気仙地区の活動団体は3団体。
陸前高田市の「県営栃ヶ沢アパート自治会」、大船渡市の「本町地域公民館」、同じく大船渡市の「花咲く盛の会」の皆さんです。岩手県で用意した花の苗、約850株を「県営栃ヶ沢アパート自治会」の皆さんは、集会所前に集まり、プランターに植栽を行い、「本町地域公民館」と「花咲く盛の会」の皆さんは、JR盛駅の東口・西口に別れて市道脇の街路柵に植栽を行いました。

東京都道路整備保全公社から被災地に、プランターや培養土などの資材をご支援いただき、青と赤のサルビア、オレンジと黄色のマリーゴールドの苗が植えられました。

参加された方々は、「東京都と東北がつながって笑顔が増えますように」や「花のように明るい町になりますように」という思いを込めてひとつひとつ大切に作業されていました。

定植した苗の一部は、東京都に提供され、今後も被災地の“今”を情報発信していきます。



■問い合わせ先

岩手県沿岸広域振興局土木部
大船渡土木センター 土木技術企画
電話：0192-27-9919

新たな商店街の形成に向け、プロジェクト進行中！ 『まちのたからばこ』

栗原南部商工会では、築館・高清水・志波姫・瀬峰地区で『まちのたからばこ』実施に向け、プロジェクトが進行中です。

『まちのたからばこ』とは、商店主・市民が講師となって、その店・その街ならではのプログラム（講座・体験）を実施するものです。そのほか、期間中に栗原市内で開催される祭り・イベントの紹介、飲食店によるイベントのスペシャルメニュー提供等を、ガイドブックにまとめて広く広報します。たくさんの方々に街の宝を発見・楽しんでいただくための取り組みです。

また、この事業では次の4つの項目を開催方針としています。

- ①商店街の枠を超えた新たなネットワークを構築する。
- ②商店・市民が主体のプログラムを創出する。
- ③商店・商店街の資源を発掘及びブラッシュアップを行う。
- ④効果的な広報宣伝による誘客を行う。

商工会・行政・商店主・NPO・市民が協力しあって、街の資源「お店・商店街・地域」の“ヒト・モノ・コト”を磨きあげることで、街の魅力を高める“エリアマネージメント”が図られます。



「楽器を吹いてみませんか？」の様子

(H28.10月実施)



まちのたからばこ

～ 見つける、楽しむ、ワクワクはじまる ～

ちなみに、初めて実施した昨年度は、「居酒屋さんの超簡単おつまみ料理教室」や「工務店が教える断熱と健康のはなし」、「理容室のプロの技！フェイシャルリンパマッサージで若返ろう！」などの講座が開催されました。参加者はもちろん、講師であるお店の店主も発見があり、学びの場となりました。

皆さんも地域が一体となって考えたプログラムに参加し、新たな商店街づくり、地域づくりに参画してみませんか？

まちの魅力が詰まった『まちのたからばこ』を覗きにぜひお越しください。

【NPO法人 Azuma-re 千葉和義代表理事
寄稿】



「古新聞でオシャレなバックをつくろう！」の様子

(H28.10月実施)

■開催期間

平成29年10月7日(土)～11月19日(日)

■開催場所 各店舗

■問い合わせ先

栗原南部商工会高清水支所

電話：0228-58-2264 または

NPO法人 Azuma-re(事業コーディネート)

電話：0228-22-1905

みなみかた花菖蒲まつりが開催されました！

登米市南方花菖蒲の郷公園で開催された「みなみかた花菖蒲まつり」。花菖蒲は例年6月下旬から7月上旬に見頃を迎える花です。初夏の訪れを知らせてくれる花菖蒲は、多くの見物客の心を癒やしてくれました。また、花言葉の一つに「うれしい知らせ」があります。訪れたときに一生懸命頑張っていた方、なにかを成し遂げようとしていた方、花菖蒲はそんな方々に幸運を運んでいたかもしれません。

花菖蒲、アヤメ、カキツバタのアヤメ科三種は似ています。花菖蒲は湿地または乾地が生息地であり、葉の主脈が大きく白い筋が見られます。よく見て観察し、見分けることでさらに花の魅力に気づくことができるかもしれません。

平安初期に古今集にも詠われたとされる「花且美」。花菖蒲の中でもこの花は松尾芭蕉も探し、陸奥国を尋ね歩いたとされ、幻の花といわれています。淡い薄紫色と純白が織りなす美しい6枚花は、見物客の心を震わせたことでしょう。

一本一本の美しさも魅力ですが、約5万平方メートルにもおよぶ広大な回遊式大庭園に約250種60万本も花菖蒲が咲き乱れた風景は圧巻でした。

まつりの当日には特設ステージにおいて、南方文化協会の方々による舞踏の披露や地元茶道趣味の会の方々の野点によるお茶提供、地場産品及び屋台の出店のほか、ジュニア・リーダーコーナーが設けられ、子ども向けのスタンプラリーが行われるなど、大人から子どもまで、たくさんの来場者で賑わいました。

花菖蒲の郷公園は、花菖蒲の他にも四季折々の花木が楽しめるようになっています。ぜひ一度足を運んでみてはいかがでしょうか。



■問い合わせ先

登米市南方総合支所

電話：0220-58-2111

イベント情報など

◆◆◆宮城県気仙沼地方振興事務所◆◆◆

気仙沼みなとまつりが開催されます

8月5日、6日の2日間にわたり、「第66回気仙沼みなとまつり」が開催されます。

5日は、67団体(約3200名)による「はまらいんや踊り」、6日は昼の部で「街頭パレード」、夕の部で「打ちばやし大競演」をはじめ、気仙沼内湾での「海上うんづら」が行われ、クライマックスには「海上打ち上げ花火」が夏の夜空を彩ります。また、サンマ船のライトアップもあり、港町気仙沼ならではの景色をお楽しみいただけますので、ぜひお越しください。



■日時・開催場所

平成29年8月5日(土)

16時30分から20時まで 田中前大通り

平成29年8月6日(日)

11時から14時まで 三日町・八日町・南町

17時から20時30分まで 港町臨港道路

■問い合わせ先

みなとまつり実行委員会(気仙沼商工会議所)

電話：0226-22-4600

■ホームページ

<http://www.kesenuma.or.jp/minatomatsuri/index.html>

◆◆◆宮城県気仙沼地方振興事務所◆◆◆

歌津復興夏まつりが開催されます

8月6日、「歌津復興夏まつり」が開催されます。

歌津復興夏まつりは、南三陸町内の若手有志を中心となってつくられ、地域の人々の笑顔、明日の活力につながるようなお祭りです。

当日は、ライブステージやスポーツめんこ、打ち上げ花火も行われますので、ぜひお越しください。



■日時

平成29年8月6日(日)

10時から20時30分まで

■場所

南三陸ハマレ歌津

宮城県本吉郡南三陸町歌津字伊里前96-1

■問い合わせ先

歌津復興夏まつり実行委員会

電話：0226-36-3117

■ホームページ

<https://utatsu-matsuri.net>

◆◆◆◆ 岩手県県南広域振興局 ◆◆◆◆
第47回かわさき夏まつり花火大会
「おらが自慢のでっかい花火」

二尺玉を含む一万発の花火大会は東北有数の規模で花火ファンを魅了します。

■開催日

平成29年8月16日（水）

■時間

- ・昼の部 正午打上げ合図開始、
イベント開始 午後3時より
- ・夜の部 午後7時～9時

■場所

一関市川崎町 北上大橋下流河畔

■料金

【事前予約席】

S席 7,000円（4～5人用）

A席 5,000円（4～5人用）

SSペア椅子席（限定15組）5,000円

【当日席】

B席 1,000円（1人用）

有料観覧席（千厩川水門側）500円（1人用）

【一ノ関駅から会場までのシャトルバス】

- ・往復料金

大人（中学生以上）700円

小人（小学生）350円

- ・観覧席セット料金

大人（中学生以上）1,000円

小人（小学生）650円

■問い合わせ先

かわさき夏まつり実行委員会
（一関商工会議所川崎支所）
電話：0191-43-2440

◆◆◆◆ 岩手県県南広域振興局 ◆◆◆◆
全国地ビールフェスティバル in 一関

全国の主な地ビールが一同に集まるイベントです。今年20年目を迎え、日本全国から100社の地ビールが集まります。



（※昨年の地ビールフェスティバル）

■開催日

平成29年8月18日（金）～20日（日）

■時間

18日 午後4時～午後8時

19日 午前11時～午後8時

20日 午前11時～午後6時

■場所

一関市 一関文化センター、一関図書館前
広場及び駐車場

■料金

地ビール・おつまみ共通チケット制
綴券2,000円（前売り・当日券あり）

- ・当日はバラ券の販売もあります。
- ・おつまみは現金でも購入可能です。

■問い合わせ先

全国地ビールフェスティバル一関実行委員会
（一関市商業観光課）
電話：0191-21-8413

◆◆◆◆ 岩手県沿岸広域振興局経営企画部
大船渡地域振興センター ◆◆◆◆
「三陸国際芸術祭 2017」
～営みから、アートへ～

大船渡駅前の大型商業施設「キャッセン大船渡」や須崎川の親水空間を舞台に、多種多様なステージが展開されます。三陸とアジアの民俗芸能や夜神楽、コンテンポラリーダンス、それを彩る現代アート、さらに三陸の芸能を実際に習うことができる体験型のアクティビティや、映像祭など様々なプログラムを予定しております。

■開催日

平成 29 年 8 月 5 日（土）～8 月 13 日（日）
（メインプログラム 8 月 11 日（金・祝）・
12 日（土））

■場所

キャッセン大船渡を中心に大船渡駅周辺

■出演

チルボン仮面舞踏（インドネシア）
バジャウ族伝統舞踊（マレーシア）
黒森神楽（宮古市）
金澤神楽鶏子舞（大槌町）
ほか国内外の郷土芸能団体



■問い合わせ先

三陸国際芸術祭 事務局
電話：0192-47-5123

◆◆◆◆ 北部地方振興事務所
栗原地域事務所 ◆◆◆◆
第 10 回くりはら万葉祭

栗原市一迫にある、古民家と里山を活用した現代美術館「風の沢ミュージアム」の野外広場で「第 10 回くりはら万葉祭ー土と火のまつりー」を開催します。

この祭りは、平成 20 年の岩手・宮城内陸地震からの復興に向けて立ち上がろうと始まり、今年で 10 回目を迎えます。

縄文時代と同様の手法による土器の野焼きを中心として、地元の特徴豊かな伝統芸能の上演を行います。また、各種体験コーナーでは、土器づくりや地域の伝統芸能団体による幣束（へいそく）作り、着付け体験などが楽しめます。

美しい里山でたかれる炎の下、縄文から脈々と続く東北ならではの魅力を体感しにぜひお越しください。



■日時

9 月 10 日（日） 正午～午後 8 時

■場所

風の沢ミュージアム野外広場
（栗原市一迫片子沢外の沢 11）

■問い合わせ先

タラチネの会（風の沢ミュージアム内）
電話：0228-52-2811

◆◆◆◆ 宮城県東部地方振興事務所
登米地域事務所 ◆◆◆◆
長沼はすまつりが開催されます

登米市の長沼といえばボートが有名ですが、8月の夏になると、水面から数十万本のハスが咲き誇ります。たくさんのハスが湖面に美しく咲く光景は圧巻です。

兵糧山公園の栈橋から遊覧船が出ており、ハスの花を間近に見ることができます。ぜひお越しください。



■開催期間

8月1日（火）～8月31日（木）

■場所

兵糧山公園

（登米市迫町北方兵糧 23-1）

■湖上遊覧

・時間

午前9時から午後4時まで

（天候により、中止の場合もあります）

・料金

一般700円、小人500円、4歳以上300円

■問い合わせ先

（一社）登米市観光物産協会

電話：0220-52-4648

登米市商業観光課

電話：0220-34-2734

◆◆◆◆ 宮城県東部地方振興事務所
登米地域事務所 ◆◆◆◆
もっこり牛まつりが開催されます

毎年8月14日に開催される「もっこり牛まつり」は、登米市南方特産の野外バーベキューなどが行われるまつりです。なかでも目玉は、もっこり和牛の丸焼きです。もっこり和牛とは、もち米を食べて育った牛のことで、まつり前日からじっくりと焼き、約1,000人分が無料で提供されます。夏の思い出に、ぜひお越しください。



■日時

8月14日（月）

午前10時から午後3時まで

■場所

登米市役所南方庁舎南側芝生広場

■問い合わせ先

登米市役所南方総合支所

電話：0220-58-2111